



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて

～競技規則の改正、クラス分けの見直しのその後と、東京2020パラの枠配分～

▶はじめに

今回は、2018年1月1日に改訂されたWPSの競技規則やクラス分けの見直し、東京2020パラリンピック競技大会の実施種目発表についてお伝えしました。

今回は、競技規則とクラス分けの見直しの進捗状況、東京2020パラリンピック競技大会のパラ水泳の枠配分方法の発表についてお伝えしたいと思います。

▶2018年WPSルール改正

2018年1月1日にWPS競技規則が改正されたことは前号でお伝えしました。

3月から始まった各地でのWPSワールドシリーズ大会で実際に適用されています。



WPS ワールドシリーズサンパウロ大会の会場。パラ専用のNTCです

主な変更点の一つである、ルールエクセプションの変更については、再クラス分けに従って淡々と進められているように見受けられます(ルールエクセプション：障がいゆえにできないことゆえに失格にならないように個々の選手に付与される記号、コードオブエクセプション＝CoE：code of exception、単にエクセプションともいう)。

例えば、S9の選手のうち、切断/欠損が片側のみの選手などで、これまでバタフライを片腕ストロークで泳いでいたのを、今後は両腕ストロークで泳がなければならないケースが出てきています。

ただし、国際ライセンス登録選手の再クラス分けが終わるまでは、再クラス分けが済んだ選手とまだ再クラス分けが済まされていない選手が混在しますので、ランキングの見方などを含め、国際状況を注視していく必要があります。

表 新CoE (Codes of Exception) 変更のみ抜粋

2	Breaststroke - One Hand Touch
3	Breaststroke - Simultaneous Intent to Touch
4	Butterfly - One Hand Touch
5	Butterfly - Simultaneous Intent to Touch

※2および3は平泳ぎについて、「片腕ストロークで片手タッチ」なのか、「両腕ストロークで両腕タッチの意思を見せてのタッチなのか」(タッチそのものは片手でもよい)、4および5はバタフライについて、「片腕ストロークで片手タッチ」なのか、「両腕ストロークで両腕タッチの意思を見せてのタッチなのか」(タッチそのものは片手でもよい)、を示す

▶2018年クラス分けの見直し

2018年に入り、WPSワールドシリーズ大会などで、2018年1月1日から有効となったWPSクラス分け規則に基づいてS11-10(肢体不自由)およびS14(知的障がい)選手の再クラス分けが始まっています。

通常であれば、国際クラス分けが実施される場合、競技会に先立ち、2日または3日かけて、2組ほどのクラス分けチームで行われるのが平均的なスタイルでしたが、今年については、クラス分けする選手数が多いので、大会により、3～5組のクラス分けチームで3日から4日かけての実施となっています。

新規則では、テクニカルアセスメント(いわゆるウォーターテスト)において、従来から少し変更が加えられたわけですが、ここまでの再クラス分けで、クラスが変更になる選手も出ており、大会運営関係者、各国チーム、選手にとって、通常の大会にも増して緊張感の高い状況が続いています。

国際ライセンス登録している選手を、一度にすべてクラス分けすることは不可能です。大会に併催されている国際クラス分け実施を淡々と続けていくしかないわけですが、先にも述べたように、2018年は再クラス分けの済んだ選手と再クラス分けがまだ済まされていない選手が混在する状態で競技会が実施されていくこととなりますので、大会が終わるごとに、ランキングやリザルト等を確認するなど、国際的な動向に留意が必要です。

2018年は、このあと、8月のWPSヨーロッパ選手権(アイルランド・ダブリン)と10月のアジアパラ競技大会で国際クラス分けの実施が予定されています。

▶東京2020パラの枠配分方法は…

東京2020パラリンピック競技大会における水泳競技の選手枠数は620(男子340、女子280)、種目数は146(男子種目76、女子種目67、混合3)、実施予定種目一覧についても、前回までにこのページでお伝えしました。

パラリンピック競技会での水泳においては、オリンピックとは異なり、指定された期間に指定された方法で、各国が選手枠を獲得します。その枠数の範囲内でしか選手を派遣する(選手を出場させる)ことができませんので、どの国もまずはひとつでも多くの選手枠を獲得することが肝要になります。

2018年3月に、620の選手枠の配分方法が発表されています(最新版は2018.7月版)。

『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』

URL www.paralympic.org/sites/default/files/document/180719082846038_2018_07_19%2BTokyo%2BQG.pdf



ここでは、概要のみをお伝えしますが…、2019年WPS世界選手権での上位2位を獲得することや、2018年10月1日～2020年1月31日の間のランキング記載記録の順位をもとに、

620枠を各国に配分していきます。

枠は、選手の成績により配分されますが、あくまで国に付与されるもので、選手個人に配分されるものではないことに注意が必要です。

獲得した枠に対して、各国ごとに派遣選手を選考する、ということになります。

東京2020パラリンピックで選手として出場するための詳細な条件、例えば、クラス分けのステータス、クラス分け受検の最終期限、MQS(標準記録)として有効な競技会の期間なども、『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています。

ここまでで、東京2020パラリンピックの選手枠数、実施種目、枠配分方法が発表になりました。今後は、引き続きMQS(標準記録)などが発表になっていくと思われます。

2019 WPS世界選手権

前述の枠配分にもおいて、大きな意味をもつ今回のWPS世界選手権ですが、2019年7月29日から8月4日まで、マレーシアのクチンにおいて、クチン2019WPS世界選手権が開催される予定です。

クチンはマレーシアのサワラク州の州都で、マレー語で「ネコ」の意味をもち、近年は観光スポットとしても注目されているそうです。会場は2015年に設立されたPandelega Rinong アクアティックセンターの予定です。東京2020パラリンピック大会をにらんだ前哨戦であり、620ある選手枠の熱い争奪戦となることが予想されます。



世界選手権の会場となるのは屋根のついた屋外プール



クチンは「ネコの街」で世界中からネコ好きが訪れています



プールを外側から見ると、このように屋根がついています